

令和5年度 第1回東海市観光ビジョン推進委員会 議事録

1 日 時 令和5年（2023年）6月30日（金）

午後3時から午後5時30分まで

2 場 所 東海市役所 603会議室（6階）

3 出席者

(1) 委員（敬称略）

佐野 安信、築波 敬子、中野 佳彦、久野 兼幸、芦木 浩隆、今井 篤、
高橋 寿征、西本 賢史、遠藤 秀紀、伊藤 春子

(2) オブザーバー（敬称略）

渡邊 亨介

(3) 事務局

東海市役所：小笠原 環境経済部長、池田 商工労政課長兼観光戦略室長、
下村 観光戦略室統括主任、小野 商工労政課主事

東海市観光協会：野口 事務局長

4 議 題 別紙 次第のとおり

5 公開、非公開の別 公開

6 傍聴者の数 0人

7 会議内容

(1) あいさつ【次第 1】

小笠原環境経済部長からあいさつを行った。

(2) 自己紹介

委員・事務局の順に自己紹介を行った。

(3) 議 事

ア 観光の現状について【次第 2-(1)】

下村観光戦略室統括主任から資料の「東海市観光ビジョンの成果指標について」を使用し、観光の現状について説明した。

中野委員：土日や長期休暇を中心に家族連れの需要が戻ってきている。

さらに、近隣のドーム等でコンサートがあると、全国から予約が集まり、満室になる。

また、インバウンドについても、モンゴルやフィリピンのツアーを中心に戻りつつある。しかし、中国からの来日客は戻ってきておらず、今後も未定である。

市内宿泊施設の宿泊者数について、観光単体の人のみでなく、日本製鉄(株)等の大規模工事等によるビジネス客の来訪も大きいと思われる。

久野委員：昨年度の大田まつり・尾張横須賀まつりについては、ポスターの作成や餅投げなど、人を集めることは中止し、実施した。

今年度は、例年どおりの実施及び周知をしたいと考えている。観光協会や名鉄各駅等へポスターを掲示し、多くの人を呼び込んで山車の運行を行いたい。

芦木委員：相模湖や富士急のイルミネーションについては、かなり人が戻っている印象を受ける。自身で収集した情報によると、若年層（20～40代）の所得額の二極化が進み、高収入層については、お金を観光に充てる需要が上がってきているというデータもあるようだ。また、若年層のクルーザーの需要も高まっているようで、全国のマリーナでは、船を取得しても保管が困難な状況であるという話も聞いている。観光についても、高級志向なコンテンツの検討も良いのではないと考えている。

今井委員：工場夜景に関連して、昼の工場見学と夜の工場夜景クルーズをセットにした1日2便クルーズの実施が復活する。

中野委員の発言にもあったが、大規模工事の際には、市内ホテルを大人数分確保して対応をすることもある。今後もこれから4年間1,000～2,000人規模で工事に伴う市内ホテルへの宿泊が予定されている。

高橋委員：中心街について、インバウンドの需要は少ないように感じる。国内需要

は戻ってきているように感じている。

円安の影響で日本は来やすい国になっている。日本文化等のシビックプライドを掘り起こす観光事業を呼び込むと観光の目玉にはなるのではないかと。

西本委員：観光農園としていちご狩りは、コロナ前の来客数にほぼ戻ってきた。12月から3月下旬まではコロナ前よりも戻ってきていた。しかし5月の長期休暇あたりから来客数が少なくなってきた。全国的に遠出の旅行が復活してきたことにより、近場でできるいちご狩りなどが選ばれにくくなっていると分析している。

佐野委員：観光地に外国人が増えている印象がある。日本人の団体旅行については1／3ほどしか戻ってきていない。個人旅行では、遠出の旅行が増えている。

全国旅行支援は、事務手続きが煩雑で旅行会社としては困惑している。

築波委員：国際交流協会として、コロナ以前は留学生がきてホームステイを行っていたが、コロナが始まり交流が止まっていた。今年は、4年ぶりに国際交流事業が再開できたが、ホームステイはいまだに中止している。次年度以降再開できるように準備していきたい。

渡邊氏：中野委員からの意見にもあったように、県内、特に名古屋市内のホテル等の部屋の稼働率が上がっている。一方で、急速に戻ってきた需要に対して、人手不足の問題が出てきている。いまだに平日休館をしている旅館もあると聞いている。さらに、円安が進んでいる影響で、外国人の方の出稼ぎ先として日本が選ばれず、外国人従業員も雇うことができない。

観光庁が推進しているここでしかできない高付加価値化をすることで、高価格のサービスも需要が出てきている。

観光ビジョンについては、AIやDXについても、どこまで反映させるか

検討が必要である。

伊藤委員：大学は、コロナ前のように学生たちの交流等も増え、通常の生活に戻ってきている。

渡邊氏の話にもあったように、外国人労働者の人手不足の問題について、卒業した留学生からも給料が低く転職をしたという話を聞いた。留学生から日本で就職したいというニーズは多いと聞いているため、観光の需要が上がっている現状から条件面で留学生と企業のマッチングがあるとよい。

イ 重点プロジェクトについて【次第 2-(2)】

小野主事から資料の「東海市観光ビジョン重点プロジェクト」を使用し、観光の現状について説明した。

中野委員：「観光」とは余暇時間の中で、日常生活圏を離れて行う様々な活動であって、触れ合い、学び、遊ぶということを目的とするものという定義づけがされている。その中で、紹介があった「リアル謎解きゲーム」等については、にぎわいづくりとしては良いと思うが、日常生活圏ではない人を呼び込めるかという点では疑問がある。

東海市が風景のモデルになっている「5等分の花嫁」の活用を検討し、東海市に来ないとできないことをさらに推進すると良いのではないか。

遠藤委員：農業センターのリニューアルの検討はいつまでの予定であるか。

事務局：農業センター単独ではなく、大池公園等のハード整備を含めて、検討を進めているため、数年かかる予定である。

芦木委員：「東海市観光ビジョン重点プロジェクト」について、継続中のものが多く目的を達成できていないように感じる。目標が達成できないときの責任の所在がはっきりしていない。

工場夜景についても、横須賀ふ頭発着ができない事情は承知したが、できるようにハードルを越えていくのが行政ではないか。

高橋委員：東海市は交通の要所として利便性が非常に良く、観光の拠点としての、ポテンシャルは高いと思われるため、それを踏まえて会議では検討する必要がある。

円安でインバウンド客の消費額が上がっているため、市内事業者についても価格の見直しをする動きがでてきており、インバウンド客を誘致するために東海市を知ってもらうことが重要である。

観光ビジョンでは、市内の経済を回すという視点も必要であるが、外貨の獲得のために、インバウンドへの投資等広い視点も特に重要である。

遠藤委員：観光ビジョンの見直しの際に、新型コロナウイルス感染症の影響はあることは間違いがないため、その影響をいち早く把握することが大切である。

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、アフターコロナの観光ビジョンを盛り込む必要がある。

高橋委員：セントレアのLCCの就航が少ない。国内外を問わずセントレアへの来場者が増えることでチャンスが増加する。

芦木委員：工場夜景クルーズについて、横須賀ふ頭ではなく金城ふ頭の場合、宿泊との連携や太田川駅での消費喚起が難しくなる。今後の展望等が知りたい。

事務局：芦木委員のご意見のとおり、クルーズのみの実施ではなく、宿泊等市内事業者との連携が必要であると考えている。クルーズ運航について、民間事業者の参入を探る社会実験を数年行ってきたが、現状は参入が困難であるとの意見を受けている。

中野委員：なぜ東海市のクルーズについて民間事業者の参入がないのか。

佐野委員：旅行会社としての意見であるが、補助金がなく民間自走しようとする
と運営費用が高くなり、採算が合わない。

高橋委員：実際にクルーズ運航を行ったが、利益を生むことは不可能に近い。行政
が安い価格で運航している現状があるため、民間が参入することは難しい。

芦木委員：民間の参入を促すためにクルーズの先にある宿泊・飲食等市内事業者等
と連携し、国内旅行・インバウンドで期待感を持たせる施策が必要である。

中野委員：行政でしかできないふ頭の整備等を行い、クルーズ運航のハードルを下
げて、費用面や企画面で民間が参入したいというところまで持っていく必
要がある。

高橋委員：クルーズの運航については、大手のみではなくて、市内事業者の連携を
主にした事業構築を行う必要があるのではないか。

事務局：工場夜景のコンテンツとしてクルーズは重要であると考えているため、継
続検討とする。

ウ 東海市観光ビジョンの中間見直しについて【次第 2-(3)】

下村観光戦略室統括主任から資料4の「東海市観光ビジョン」を使用し、中
間見直しについて説明した。

遠藤委員：観光ビジョンの中間見直しについてご意見等会議後にメール等でも受付
をするもの。

8 その他

(1) 今後の会議予定

事務局：次回は9月又は10月頃を予定している。

(2) 今後の事業予定

今後の事業予定について説明した。(花火大会、太田川駅前ハロウィンタウン、秋まつり、もみじまつり、ウィンターイルミネーション)

以上